

## 2021 年度研究集会プログラム

14:00   14:30 (30分)	<b>開会の挨拶</b> 村田富生 ICA2026 準備委員会 ICA2026 学術部会部会長
14:30   15:30 (60分)	<b>時空間データ解析手法の活用事例</b> 佐野誠一郎 共栄火災海上保険株式会社 討論者 野村俊一 早稲田大学商学大学院 准教授 例えば GLM による頻度モデルにおいて地域を説明変数として用いるのは、その多面的な構造を表現することが難しいため単純ではない。このような課題に対応する手法として隣接する地域間の従属性を反映する条件付き自己相関 (CAR) モデルがある。本発表では、GLM に CAR モデルだけでなく時系列のトレンドを反映した時空間モデルならびにその効率的な計算手法 (INLA) を提案する。提案モデルは従来の頻度モデルに地域間および時系列の影響を上手く反映し、これにより説明力と予測精度にバランスをもたらすモデルとなり実務的に有用であることを、一般統計を用いた事例によって示す。
休憩 (10分)	
15:40   16:40 (60分)	<b>被保険者の健康年齢®の改善が医療保険会社の支払能力に与える影響</b> 永井克彦 株式会社 JMDC 討論者 谷口豊 ブルデンシャル・ホールディング・オブ・ジャパン株式会社 被保険者の健康年齢®を改善させることを条件に被保険者に対し還付金や保険料割引などの経済的インセンティブを付与する設計の医療保険を考える。健康年齢®は健康診断結果から推定される医療費が実年齢何歳相当かを表す指標で株式会社 JMDC が開発したものである。保険会社が伝統的な医療保険の代わりにこのような設計の医療保険を提供する場合、被保険者は健康年齢®の改善を目指す努力を行なうようになるが、その努力が実際に実って健康年齢®が改善したとする。このとき、保険会社の支払う期待保険金が減少するほか、外部効果として公的医療保険の医療費も減少する。それでは、保険会社の視点で見て、被保険者に経済的インセンティブを供与する一方で期待保険金の減少を享受するというのは損と得のどちらなのであろうか。本研究では、国際保険資本基準 (ICS: Insurance Capital Standard) の最新版を用いたシミュレーション分析を通して、この点を明らかにした。
16:40   17:00 (20分)	<b>閉会の挨拶 論文の作成について</b> 白石博 慶應義塾大学理工学部 准教授 研究テーマの見つけ方、論文執筆にあたっての留意点について紹介する。